

OEWG1報告会

# NGO/企業の視点から 見た感想

国連生物多様性の10年市民ネットワーク

事務局長 宮本育昌

# 目次

- NGOの視点から
- 企業の視点から

# NGOの視点から

## ◆CBDアライアンスの動き

### 1. 準備会合

4つの集団(クラスター)について議論

- IPLC・女性の権利ベースアプローチを主張。
- コンプライアンスメカニズムを強く要求。
- 国のボランティアコミットメント不可。
- 条件整備は国の資源動員重視。企業は敵。

### 2. ステートメント

ポスト2020に含むべき要素

- 根本的変化
- 予防原則と汚染者負担原則
- 包括的・明確・実践メカニズム
- 新技術評価メカニズム

# NGOの視点から

## ◆CBDアライアンスの動き

### 3. ロビーアクション

- IPLC/ユースと共同実施
- プラカード、寸劇

### 4. 政府団との対話

- GRULAC(ラテンアメリカ・カリブ海グループ)
- EU
- 日本・韓国・中国

# NGOの視点から

## 1)政府団への質問

- APECゴールについてどう考えるか？
- アフリカが提案している技術メカニズムについてどう考えるか？また、新規技術は生物多様性保全に有益だと考えるか？
- 大規模な生物多様性の損失につながるドライバーについてどう考えるか？
- コンプライアンスメカニズム・権利に基づくアプローチについてどう考えるか？
- 今後の資金提供についてどうコミットメントするつもりか？
- IPLCがCOPで行ってきた自然文化イベントについて、OCP15でも支援してもらえるか？

# NGOの視点から

## 2)意見表明

- COP15に向けて中国においてNGOとの連携を進めて欲しい。
- 草の根団体など小規模NGOがPost-2020の議論に参画できるように、資金と情報を提供して欲しい。
- 今後の会合に合わせて市民セクター主催のテーマ別ワークショップを運営したいと考えているので支援して欲しい。

# 企業の視点から

## ◆参加企業

- 3社のみ

## ◆興味深いキーワード

- ボランタリーコミットメント
- 利益配分
- 生物多様性(自然)に対する支払い
- ESG投資
- 自然資本プロトコル
- 主流化
- SMARTターゲット

(結果起因R→測定可能M→特定S→達成可能A→期限T)

ご清聴ありがとうございました！